

年 組 名前：

「<sup>しんげん</sup>信玄<sup>だい</sup>の<sup>こう</sup>の<sup>ふ</sup>ろし<sup>ふっかつ</sup>台」甲府に復活へ

甲府市は、武田信玄生誕500年を記念し、戦国時代に信玄が情報伝達的手段として用いていた湯村山の「のろし台」を復活させます。観光や教育への活用を図ろうと整備を決めました。費用はインターネットのクラウドファンディングで来年2月1日まで募り、目標金額は800万円に設定しています。市観光課によると、湯村山には信玄の父・信虎が山城を築いたとされ、甲府盆地を見わたすのに適した立地を生かし、監視や情報収集の役割を担い、情報伝達のために、のろし台も設置したとされます。2012年までは民間団体が設置したのろし台がありましたが、老朽化のため撤去されています。

(2021年11月18日付)

山梨日日新聞 週刊こぴっと 10面)

問1

「のろし」とは、薪などを燃やした時に上がる煙のことです。

戦国時代はどんな目的で「のろし台」を築いたのですか。

問2

甲府市は、何を記念して「のろし台」を復活・整備させるのですか。

書いてください。

問3

「のろし台」の整備費用は①万円に設定し、②を通じて来年の

③月④日まで募ります。①～④に入る数字、言葉は何ですか。

① 「 万円」

② 「 」

③ 「 月」

④ 「 日」